平成 17 年度都市計画マスタープラン策定実習６班　最終レポート

班長：　太田　　聖　　200310963
班員：　杉安　　和也　　200311006
　　津波古　陽香　　200311016
　　林　　利充　　200311030
　　矢萩　　雅広　　200311058
ＴＡ：　佐々木　翔一

目次

1. 現状と将来分析 ····· 5
1-1. 土浦を取り巻く状況 ····· 5
1-2. 将来人口予測 ····· 6
1-3. JICA-STRADA、CUET による将来分析 ····· 7
1-4. 市民の意向 ····· 8

2. 基本計画 ····· 9
2-1. 基本理念 ····· 9
2-2. 将来都市像 ····· 10
2-3. 地域将来像 ····· 11

3. 重点整備計画 ····· 14
3-1. 「大人美モール整備」計画 ····· 14
3-2. 「教育と地域の活性」計画 ····· 20
3-3. 「自然への招待」計画 ····· 25

4. 今後の展望 ····· 30

5. 参考文献 ····· 31

6. 謝辞 ····· 32

[付録]

第１回中間発表レジュメ
第２回中間発表レジュメ
最終発表レジュメ

図表目次

図 1-1　土浦市の位置
図 1-2　総人口と高齢者人口割合の推移
図 1-3　土浦市とつくば市の高齢者人口割合の比較
図 1-4　平成 10 年における道路状況
図 1-5　平成 17 年における道路状況
図 1-6　平成 22 年における道路状況予測
図 1-7　自然環境保全の対策に対する満足度
図 1-8　中心市街地の整備に対する満足度
図 2-1　両市の共存･補完
図 2-2　将来都市像
図 2-3　大人美タウン概念図
図 2-4　土浦中心市街地
図 2-5　乙戸沼公園
図 2-6　グリーンツーリズムイメージ
図 3-1　土浦市の高齢者人口推移予測
図 3-2　健康状態（東京ガス都市生活研究所調べ）
図 3-3　余暇に費やせる時間（東京ガス都市生活研究所調べ）
図 3-4　土浦市バス路線
図 3-5　ツワワさん路線図
図 3-6　アララくん路線図
図 3-7　路線別 200m圏図
図 3-8　プロジェクト概念図
図 3-9　商学交流イメージ
図 3-10 商店街 HP イメージ
図 3-11 福学交流イメージ
図 3-12 若者自主活動イメージ
図 3-13 実際の世代間交流
図 3-14 自然への招待
図 3-15 グリーンツーリズムを体験してみたい
図 3-16 教育にグリーンツーリズムは必要か
図 3-17 グリーンツーリズムを体験してみたい
図 3-18 グリーンツーリズム情報発信の HP のイメージ
図 3-19 農村生活のイメージ

表 3-1　土浦市の福祉施設サービスの現状
表 3-2　200m 圏人口数
表 3-3　笠間クラインガルテン概要

1. 現状と将来分析

1-1.土浦市を取り巻く状況

土浦一帯は江戸時代初期に城下町として形成され霞ヶ浦や河川を利用した水運を利用した交通要衝、物資の集散基地として栄えた。その後、市内を常磐自動車道や JR 常磐線が縦断し、また東京から比較的近い地点（60km 圏内）に位置している（**図 1-1**）ため、隣接するつくば市や牛久市と共に茨城県南部の業務核都市としての機能を担ってきた。しかし、その都市機能は変わりつつある。その変化をまとめると以下の 5 つが挙げられる。

図 1-1.土浦市の位置

- **中心市街地での都市機能の脆弱化**
- **国道 6 号線をはじめとする幹線道路の渋滞**
- **自然資源を有効に活用できていない**
- **近隣都市であるつくば市の魅力創出**
- **土浦駅周辺のマンション建設ラッシュ**

１つ目から３つ目までの変化は比較的以前から考えられてきた問題点である。モータリゼーションの進展は幹線道路の渋滞を引き起こした。また中心地の地価上昇やモータリゼーションの普及とともに郊外の開発が進み人口が郊外へと流れ、 同時に都市の機能が郊外へと移り中心市街地が脆弱した。

霞ヶ浦やハス田といった自然資源が豊富にあるにも関わらず、観光資源などという有効な利用策が講じられていなかった。

一方、４つ目と５つ目の変化は今まさに現れ始めてきているものと言える。近隣都市であるつくば市では、いままで学園都市としての機能を果たしてきたが、つくばエクスプレスの開業により商業都市としての新たな魅力を持ち始めている。

また中心地の地価が大幅に下落したため、また駅前に充分な空き地が存在するため、多くのマンション建設･計画が進んでいる。以上の現状と問題点を考慮すると土浦市の都市計画は今、新たな局面を迎えていると言える。

1-2.将来人口予測

国立社会保障・人口問題研究所による市町村別将来推計人口結果から土浦市と旧新治村の 2030 年までの総人口及び高齢者人口割合を調査した（**図 1-2**）その結果、総人口は 2015 年の 147,173 人をピークに微減していくが、ほぼ横ばいである。次に、高齢者人口割合であるが 2030 年には 65 以上の人口が３割を超えるという推定である。これは、全国平均をやや上回る値となっている。つまり、総人口は変わらず、高齢者人口割合だけが増えるということになる。

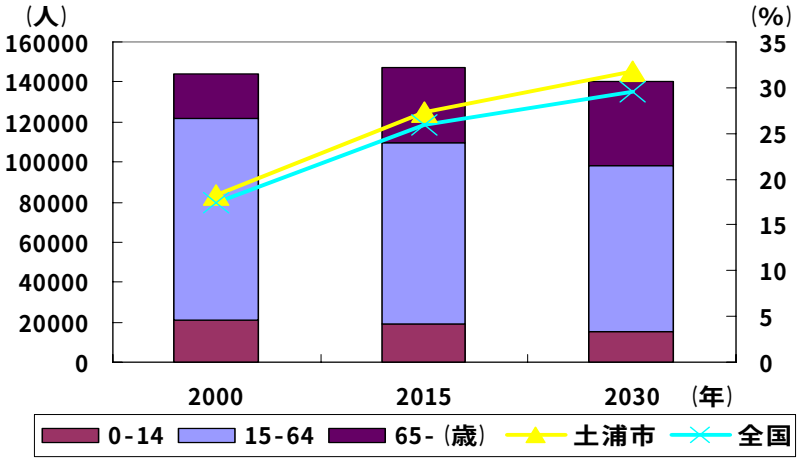


図 1-2：**総人口と高齢者人口割合の推移**

続いて、つくば市の推計結果では人口は増加傾向にあり、高齢者人口割合についても全国平均よりもかなり低い値となっていることから（**図 1-3**）、つくば市は若い年齢層が多いまちであるといえる。

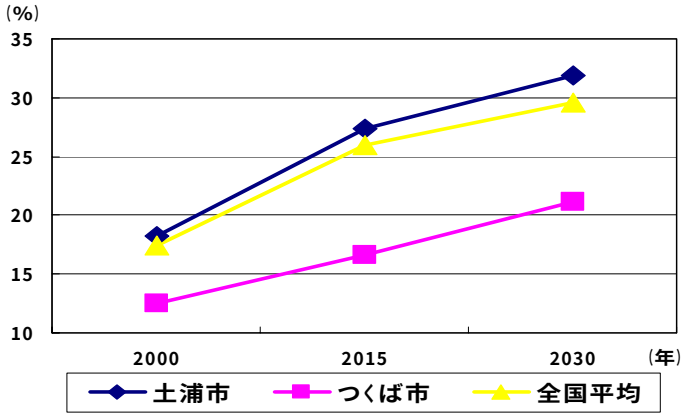


図 1-3：**土浦市とつくば市の高齢者人口割合の比較**

1-3.JICA-STRADA、CUET による将来分析

TX 開通による商業・人口変化、土浦駅前のマンション開発による人口変化などによって、道路混雑はどのように変化していくかを分析した。**図 1-4** は平成 10 年における道路状況を表している。

平成 17 年 TX 開通後の商業として Qt、デイズタウンなどのショッピングセンターを追加して分析したところ、つくばセンター⇔土浦駅東学園線間の混雑度が増加し、常磐自動車道の混雑度が減少し、TX 利用による交通渋滞の変化がみられた(**図 1-5**)。

さらに平成 22 年計画中道路を全線開通させ、土浦駅前のマンション開発の影響を分析すると、阿見町・つくば市などの周辺市町村から土浦駅前に向かう幹線道路に渋滞がみられる(**図 1-6**)。これは中心地開発にあわせた十分な交通インフラの整備が行われていないためと思われる。この渋滞を解消するため、車線の増設・公共交通の整備・バイパスの増線・駐車場の設置などの対策を計画している。

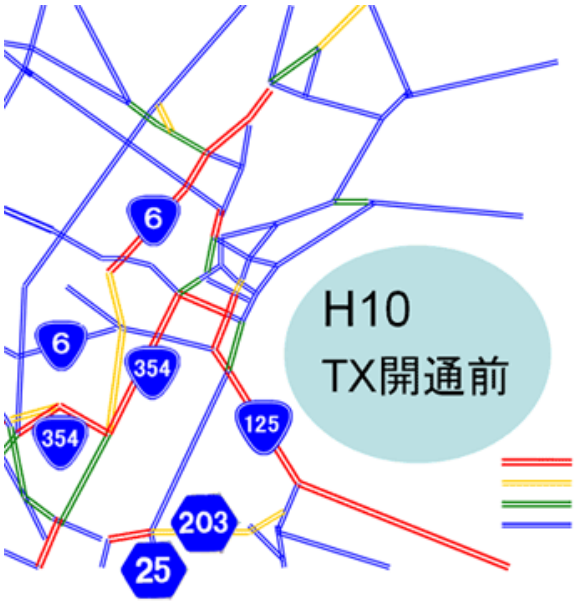


図 1-4：**平成** 10 **年における道路状況**

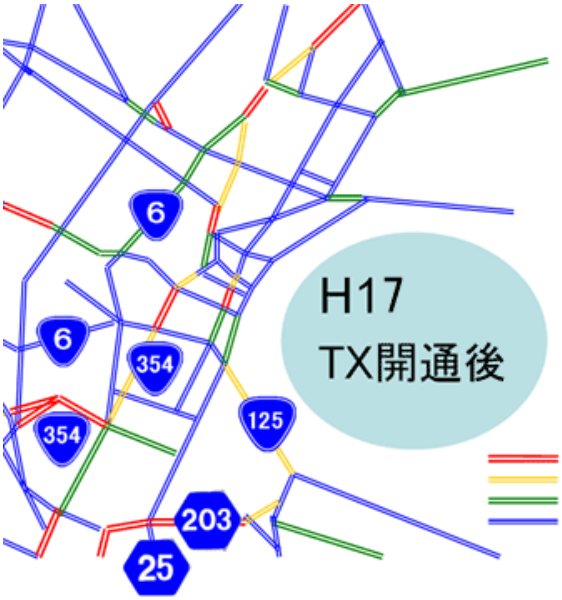


図 1-5：**平成** 17 **年における道路状況**

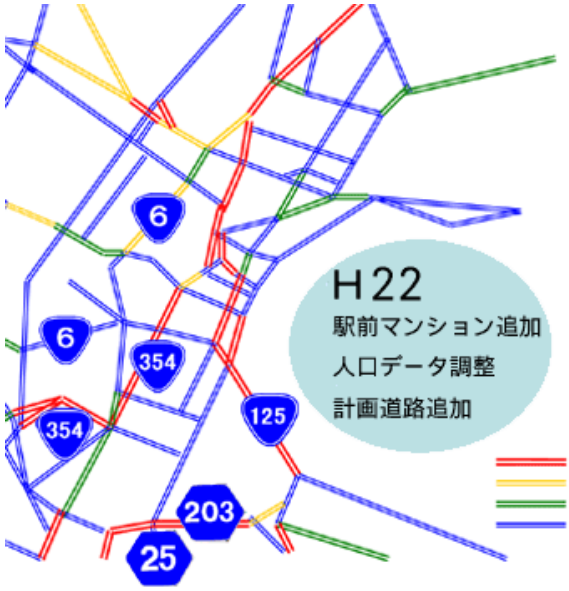


図 1-6：**平成** 22 **年における道路状況予測**

1-4.市民の意向

まちづくり市民アンケートから市民の意向を調査したところ、自然環境保全の対策や中心市街地整備に対する不満が多いことが分かった(図 3,4)。また、土浦市は教育・文化の充実を掲げており、心の豊かさとたくましさを育むまちづくりというものも目標としている。

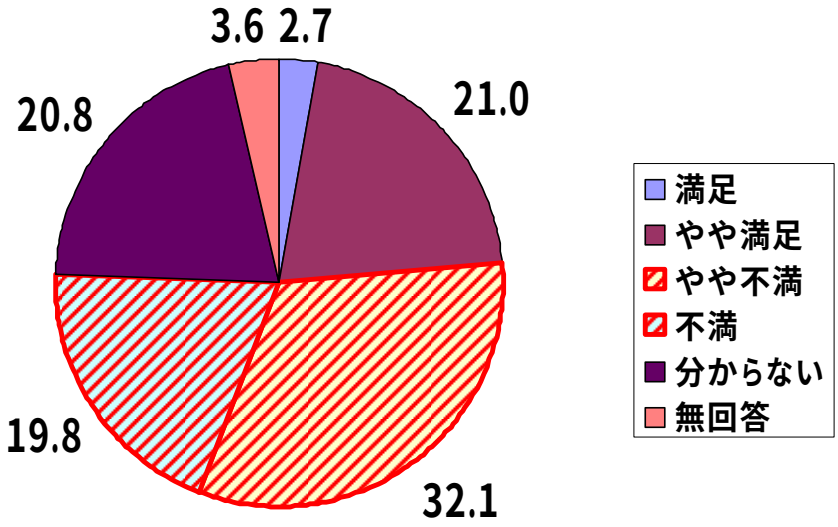


図 1-7：自然環境保全の対策に対する満足度

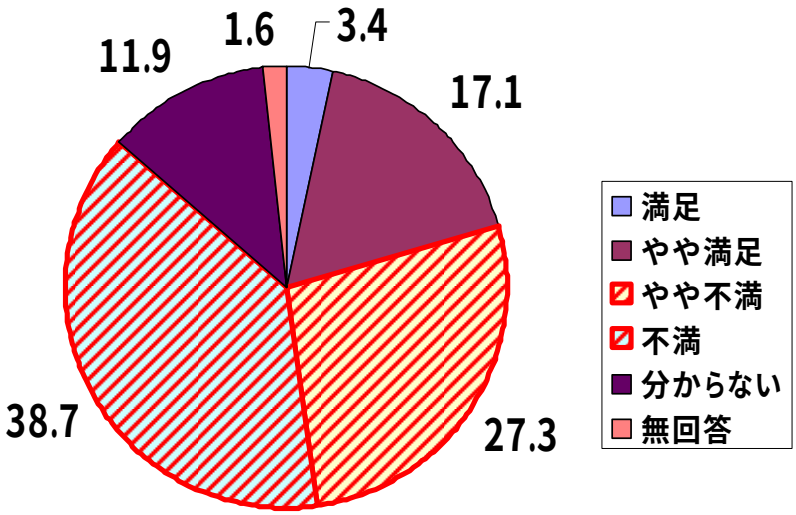


図 1-8：中心市街地の整備に対する満足度

2. 基本計画

2-1.基本理念

図 2-1：両市の共存･補完

将来人口予測から土浦市においても高齢社会への対応は重要な課題であるといえる。

また、つくば市が近年若者のまちとして商業都市の機能を持ち始めており、土浦市も新たな魅力を創出したいと考えた。そこで成熟した都市として誰もが住みやすいまちを目指し、その中でも「**大人のまち**」をコンセプトに掲げる。これは特に壮年者から高齢者といった年代の市民が住みやすいまちになるよう、まちづくりを展開することを意味する。

つくば市とターゲットの年齢層に差をつけることによって**両市の共存・補完**を図る。

2-2.将来都市像

基本理念をもとに将来都市像を以下のように設定する

・大人を**豊かな老後生活**へナビゲーションし
・若者を**次世代で活躍できる大人**へナビゲーションし
・**楽しい暮らし**へナビゲーションする

図 2-2：**将来都市像**

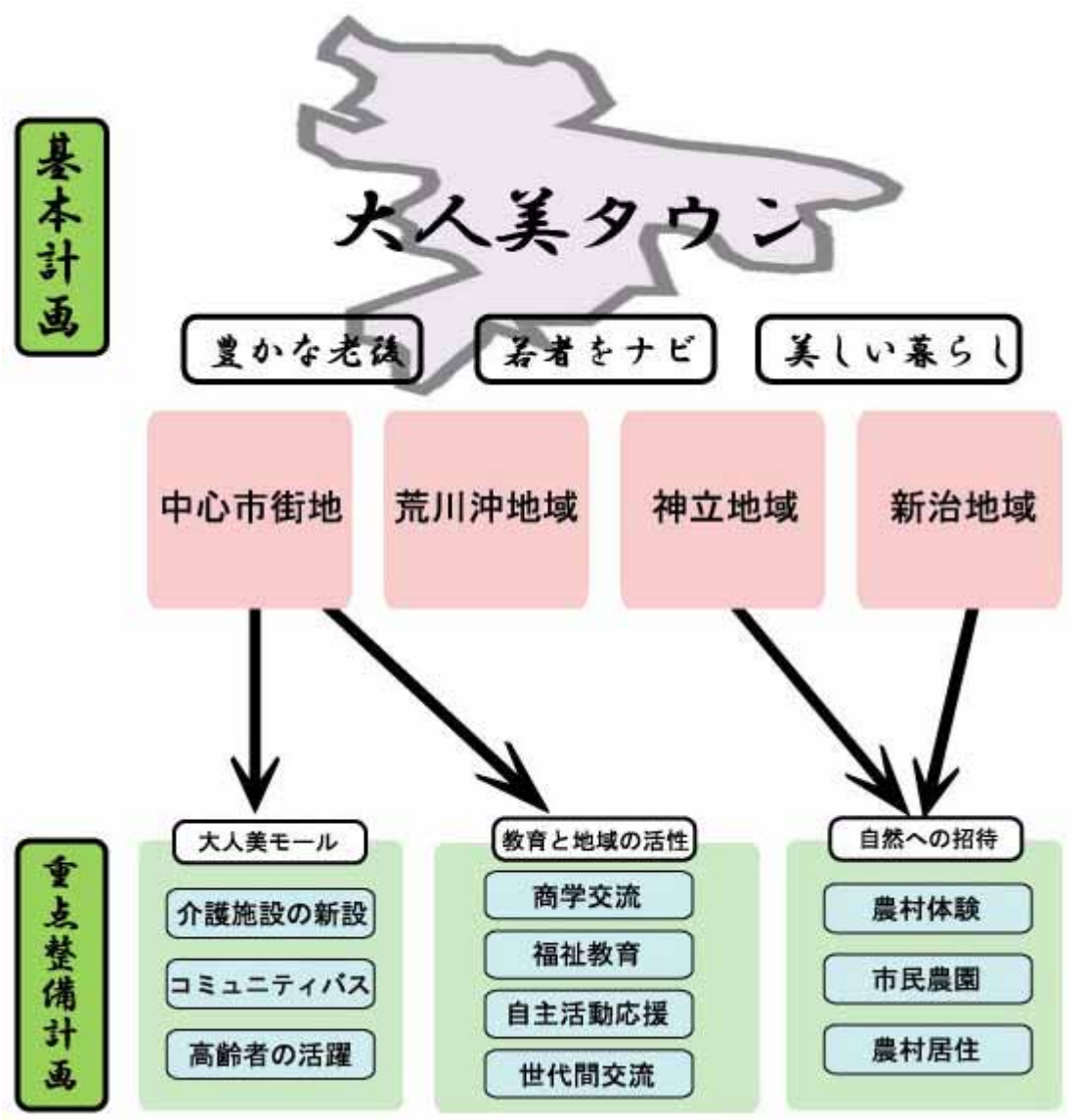


図 2-3：**大人美タウン概念図**

2-3.地域別将来像（１）

【中心市街地】

地価の下落により、マンションの建設が進み、人口の増加が予想される。人口増加を考慮して公共施設の整備が求められるはずである。特に中心市街地内の高齢化が進むことを考慮すると、介護施設等の高齢者向けの施設の建設が求められるだろう。そこで療養型医療施設を川口運動公園跡地（予定）に建設する。

川口運動公園跡地は介護施設の建設とともに親水公園の整備を同時に行い、市民の憩いの場とする。これにより新たなレクリエーション拠点の創出を目指す。

しかし、高齢者はみな介護が必要と言うわけではない。介護を必要としない「元気高齢者」も今後増加する事が予想される。そのような方が豊かな老後生活を送れるような環境の整備が求められる。そこで中心の活性を見込んだ地域活性化バス「キララちゃん」の他に、地域住民のニーズ（公共施設、公園、介護施設等）に対応したコミュニティバス（ツワワさん）を運行する。以上の計画を**「大人美モール」（重点整備計画①）**としてまとめて、一帯の整備を目指す。

また若者の教育と地域活性を目指し、若者が産業や福祉に積極的に参加できるような環境を整備する。これには若者を次世代で活躍できる大人へ導くとともに、土浦に愛着を持って長く居住してもらう事をねらいとする。この計画を**「教育と地域の活性」（重点整備計画②）**とする。

図 2-4：土浦中心市街地

【荒川沖地域】

この地域には清掃センターの余熱を利用した複合施設「ながみね」や乙戸沼公園等の公共施設が存在している。しかしいずれも市街地からは遠く、充分な利用状況とはいえない。住民からもキララちゃんのようなバスの運行を願う声がある。そこでそれらの施設を循環するコミュニティバス（アララくん）の運行を目指す。

図 2-5：**乙戸沼公園**

2-3.地域別将来像（２）

【神立地域】

神立駅周辺地区の整備については北部の拠点として、かすみがうら市と連携して整備を行う。

ハス田を観光資源と位置付け、グリーンツーリズムやクラインガルテンの環境整備を行う。霞ヶ浦環境センターを霞ヶ浦の研究調査の場としてなく、グリーンツーリズムに参加する者同士の交流の場として活用する。

【新治地域】

この地域は豊富な農資源があるにも関わらず、働き手の高齢化が見込まれている。そこでこの地域にもグリーンツーリズムやクラインガルテンを整備する。神立地域とあわせてこの計画を「**自然への招待**」（**重点整備計画③**）とする。

図 2-6：**グリーンツーリズムイメージ**

3. 重点整備計画

3-1. 「大人美モール」計画　～大人を豊かな老後生活へナビ～

大人を豊かな老後へナビするために、介護施設の新設、元気高齢者に向けた事業の整備、交通弱者に向けた公共交通の整備を行う。

3-1-1. 介護施設の新設

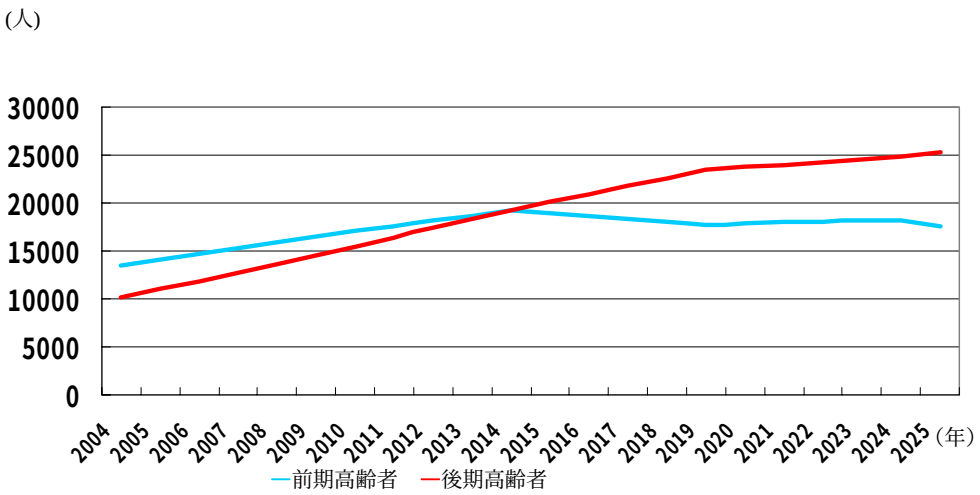


図 3-1：土浦市の高齢者人口推移予測

図 11 は土浦市の高齢者人口推移である（土浦市高齢福祉課：平成 17 年 3 月）。このデータによると土浦市の場合、平成 26 年を期に後期高齢者（75 歳以上）の人口が前期高齢者（65 歳以上 75 歳未満）の人口を上回ることが分かる。

表 3-1：土浦市の福祉施設サービスの現状

種別	施設数	定員数	利用者数
老人福祉施設	7	360	313
老人保健施設	3	300	262
療養型医療施設	0	0	22

土浦市には平成 17 年 9 月 1 日現在、施設サービスとして老人福祉センターが 7 施設、老人保健センターが 3 施設存在している(表 1)。そして他市町村施設の利用者を含めた市民の施設利用者数はいずれも各施設の定員数を上回っていないため、これらの施設は比較的充実しているといえる。しかし、療養型医療施設は市内に存在しない。療養型の医療施設に入所している市民 22 人はいずれも他の市町村の施設を利用していることになる。後期高齢者が今後顕著に増加すること、中心市街地にマンションが建設され、高齢者人口の増加も見込まれること、中心市街地の高齢化率が他の地域に比べて高いことを考慮すると、療養型医療施設の新設が必要である。建設地は霞ヶ浦を望む川口運動公園跡地（予定）とし、同時に大人美モールの中心地として里浜公園を整備する。

3-1-2. 元気高齢者のライフスタイルを提案

2007 年以降団塊世代が定年退職を迎え、数年後には「高齢者」と呼ばれるようになる。しかしこの世代は活力を持った世代であり、要介護認定を受けない「元気高齢者」の人数も増加すると予想される。

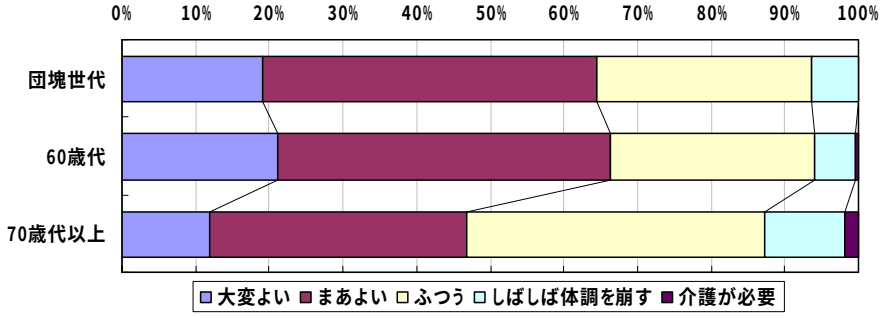


図 3-2：健康状態（東京ガス都市生活研究所調べ）

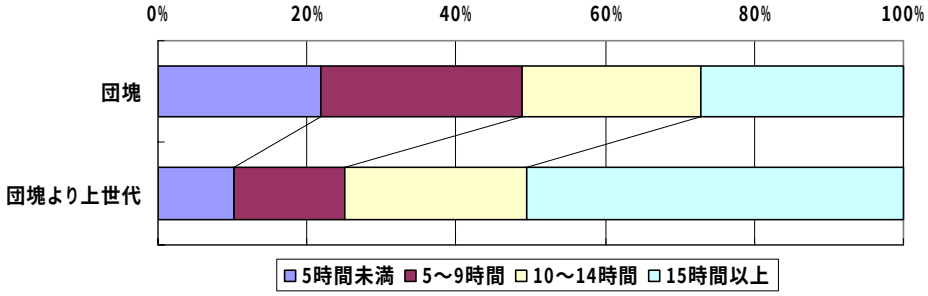


図 3-3：余暇に費やせる時間（東京ガス都市生活研究所調べ）

東京ガス都市静活研究所がまとめたアンケートによると、団塊世代の方で６割を超える人が「健康である」と答えている。そのような健康な人々が高齢期を迎え、余暇時間が増加することが予想される。

そこで元気な高齢者が余暇を快適に過ごせる場の整備を進める。例えば「いきいきネットワーク」が展開するミニデイケアサービス（いきいき館たいこ橋など市内６ヶ所）の推進を図る。また、この事業の一環として「老若しゃべり場」を提供する（この事業については次節で紹介）。この活動によって高齢者と若者がふれあい、高齢者の活力向上が期待できる。

3-1-3. コミュニティバスの整備

現在、土浦市のバス交通は関東鉄道をはじめとした６つのバス会社が運営する３４のルートと、中心市街地を運行するまちづくり活性化バス「キララちゃん」の３つのルートがある。特にキララちゃんは地域活性化が目的であり、人口密度が高く商業が発達している中心市街地を通るように設定されている（図 3-4）。これに対して、福祉に着目した循環バス路線（いずれも 100 円均一）を新設する。ルートは次のような条件の下に設定した。

・医療、介護施設を経由する
・高齢者人口密度の高い地域を通る
・既存路線と競合しない道路を通る
・CUET、JICA-STRADA による分析で渋滞が少ない道路を通る

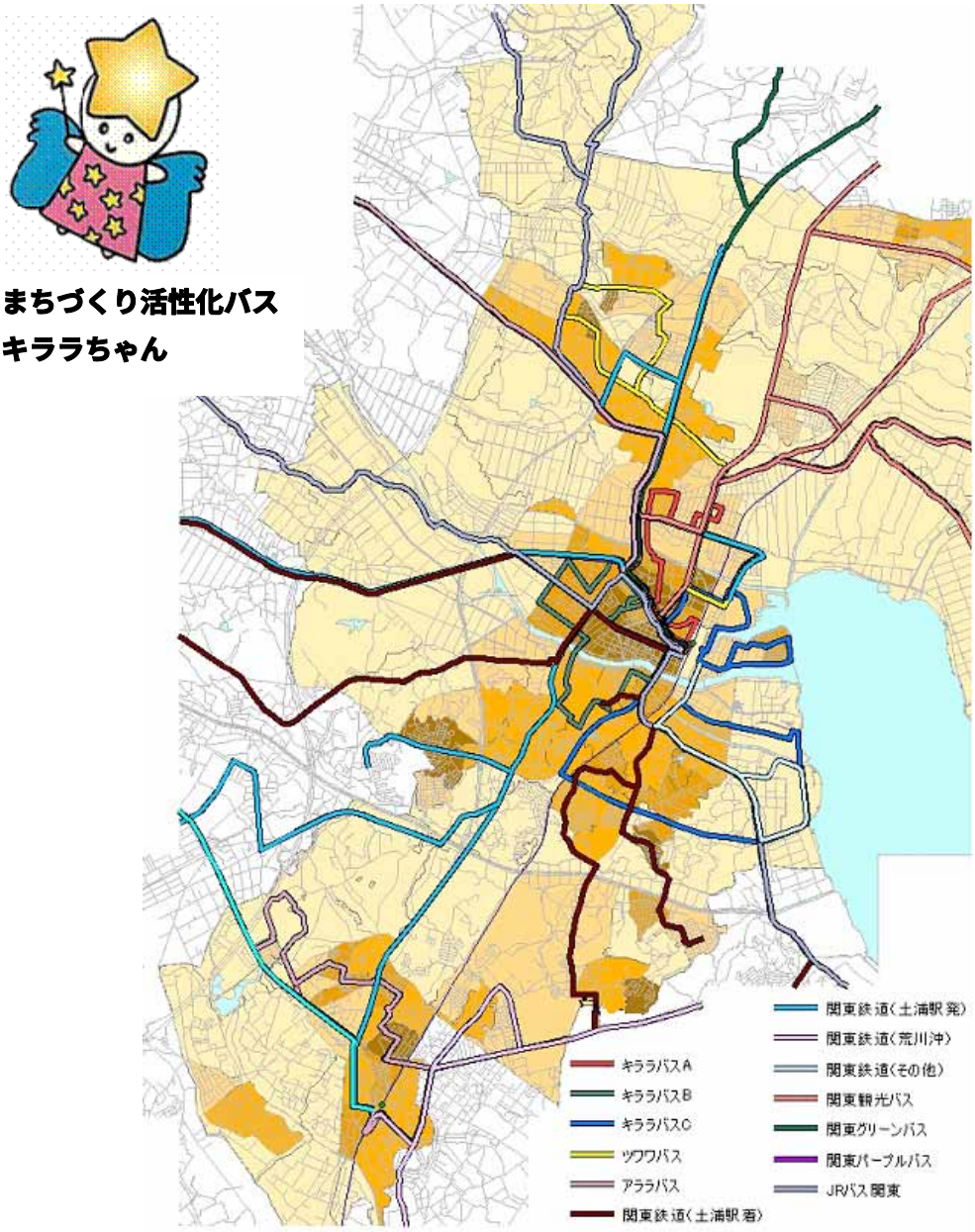
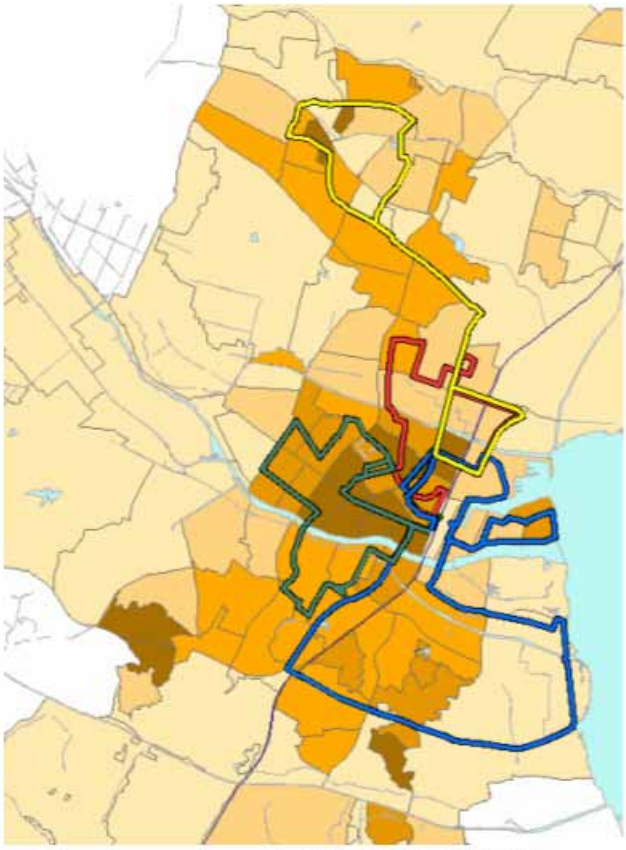


図3-4: 土浦市バス路線

【ツワワさんルート】

新設する介護施設を発着地とし、高齢者人口密度の高い真鍋・都和・板谷地区を循環する。これらの地区は住宅が多く立ち並んでおり、需要はあるといえる。特に、板谷地区は既存路線がないため、利用者が見込める。また、交通渋滞が多い国道６号線を通らないように設定してあるため、定時制が確保できる。



都和中地区循環バス
ツワワさん

バスルート
- 市民会館循環
- 市役所循環
- 霞ヶ浦循環
- ツワワさん

高齢者人口密度（人/ha）
- 0.00 ～ 2.73
- 2.73 ～ 6.21
- 6.21 ～ 10.44
- 10.44 ～ 17.00
- 17.00 ～ 35.65

図3-5：ツワワさん路線図

【アララくんルート】

郊外でのコミュニティバスのニーズに応え、荒川沖にルートを設定した。こちらも高齢者人口密度の高い住宅地を循環し、介護・医療施設や商業施設が集まる駅東西口と繋ぐ。既存路線と渋滞の条件も満たされている。

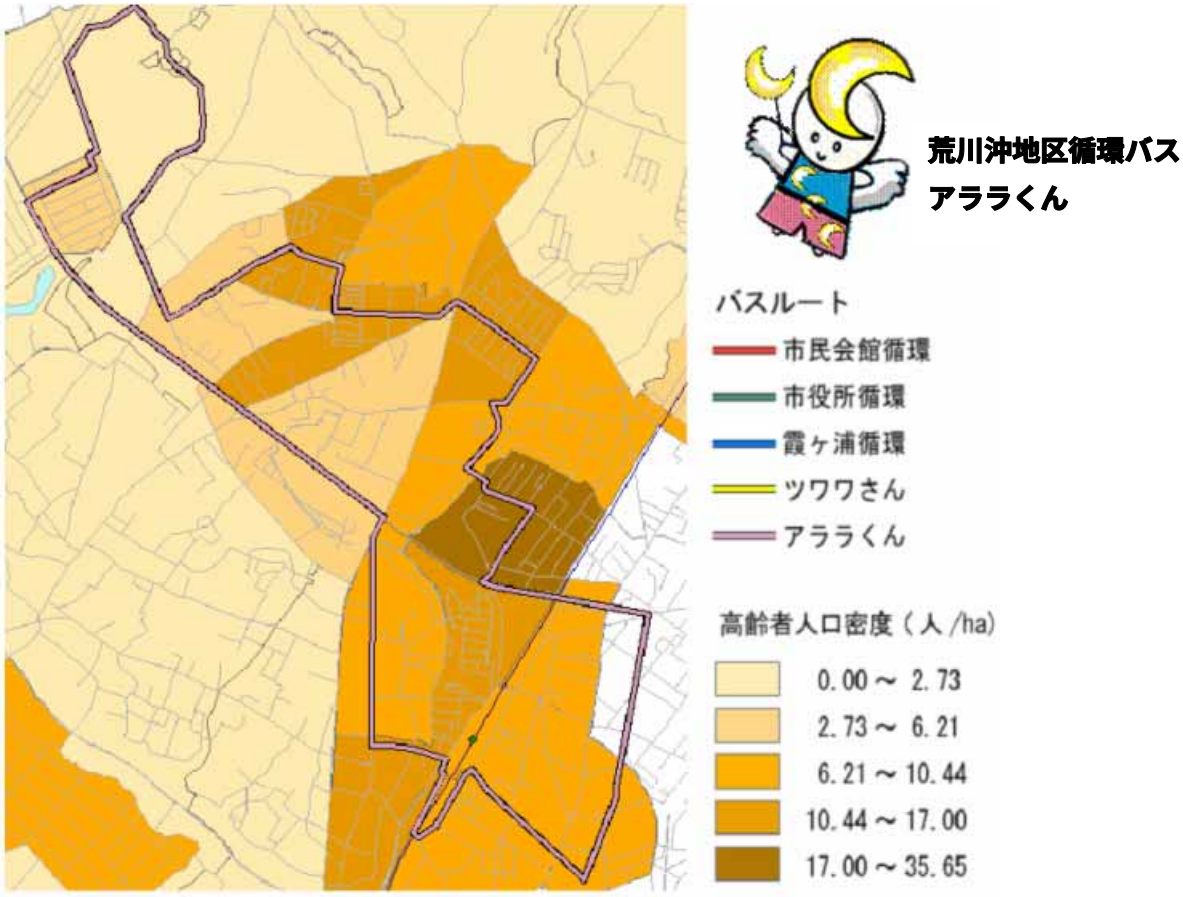


図3-6：アララくん路線図

【新ルート検証】

キララちゃん・アララくん・ツワワさんのルート 200m 圏内に居住する全人口と高齢者人口を調査したところ、アララくん・ツワワさんともキララちゃんと同程度の人口規模があり、十分な需要が見込める。

表 3-2：200m 圏人口数

	高齢者（人）	全体（人）
	2005（3ルート平均）	9652
	2277	12386
	2018	9771

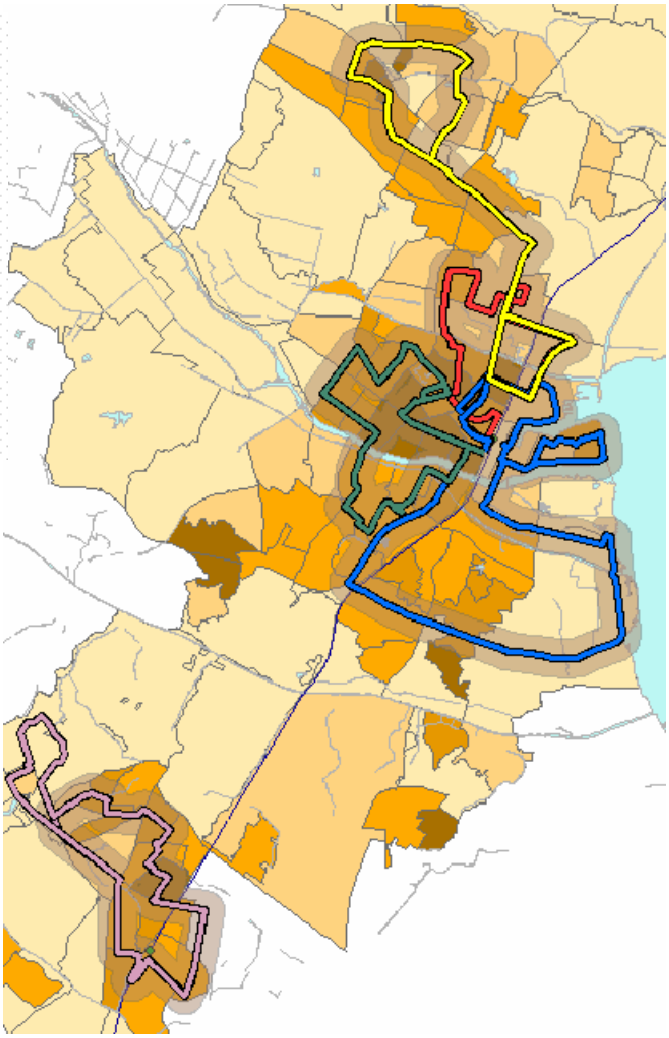


図 3-7：路線別 200m圏図

3-2.教育と地域の活性　～若者を次世代で活躍できる大人へナビ～

将来的に大人美タウンを持続していくために、若者の教育が重要である。そこで、若者が活躍できる場の提供を提案する。これは、地域への参加を通して地元への愛着を高めることも目標としている。ここでは、産業と福祉の２つの分野から４つの事業の提案をする。

3-2-1.産業

【商学交流事業】

地元商店街と大学や専門学校を始めとする教育機関が協働し、商学交流事業を行うことによって地域の活性化を図る。現在の商店街は経営者が高齢であることが多く、空き店舗も多いため、若い力が必要である。また、学生側も実践的な学習として経験を積むことができる。

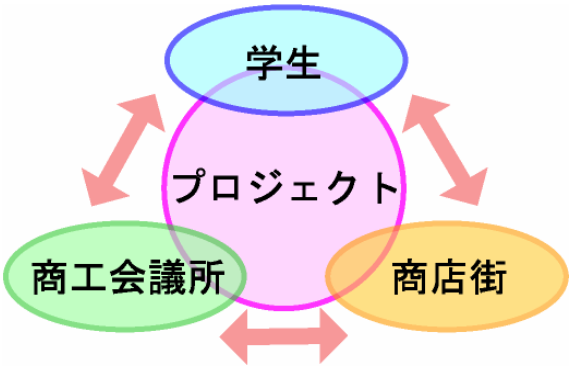


図 3-8：プロジェクト概念図

実現可能性を市商工会議所とつくば国際大学にヒアリング調査したところ、商工会議所は「若い人にぜひ参加してほしい」、つくば国際大学は「地域貢献はしたいので機会があれば参加したい」との回答を得られた。このことから、商店街と教育機関の両者を繋ぐ機会を設ければ十分に可能な提案であると言える。

具体的な内容としては、商工会議所、商店街、学生でワーキンググループを立ち上げ、３ヵ年計画の活性化プロジェクトを実行していく。事業の総合的な協議を行った上で、イベント・ビジネス、IT 戦略、空間デザイン等のチームを結成し事業を行っていく。

図 3-9：商学交流イメージ

イベント・ビジネスチームは年数回行うイベントの企画・運営やチャレンジショップ等の事業を、IT 戦略チームは現在土浦市に不足している広報の活発化という面で HP の運用、モールマガジンや商店街通信の発行等を行う。空間デザインチームは空き店舗の利用やショップデザインの計画を行う。また、定期的にワークショップを開くことで地元の意見を広く取り入れる。

図 3-10：商店街 HP イメージ

先進事例：
横浜国立大学 - 和田町商店街
東日本国際大学 - いわき市商工会
いずれも商店街再生に貢献しており、継続的に事業を行っていくべきだとされている。

3-2-2.福祉

【福学交流事業】

福祉への関心と福祉環境の向上を図るため、福祉施設と教育機関が協働し福学交流事業を行う。これは、福祉面での効果だけでなく世代間交流の場も提供できる。

福祉施設でのインターンシップや演習・実習等を教育プログラムに組み込み、福祉の現状を実際に体験してもらう。また、現在不足しがちなボランティアへの登録を奨励し、地域貢献を呼びかける。一定の成果を納めた学生に対しては単位として認定する制度を取り入れる。

図 3-11：福学交流イメージ

先進事例：
仏教大学福祉教育開発センター

【若者自主活動応援事業】

若者の相互交流と豊かな心を育むことを目的として、商工会と社会福祉協議会の出資による「若者自主活動応援事業」を実施する。

これは、若者が中心となって、自分たちの成長や地域活動の貢献等、自主活動を行っている団体（グループ・サークル）等を支援する事業である。対象となる活動はボランティア・文化・イベント・学習活動で、事務経費等を負担することとする。

図 3-12：若者自主活動イメージ

先進事例：
大阪府人権協会
「コミュニティ・ユースサークル助成事業～地域の活動にがんばる若ものたちを応援します～」

【世代間交流事業】

高齢者から若者への教育として、「老若しゃべり場」という小学校の空き教室を利用した対話できる場を設ける。高齢者福祉施設「たいこ橋」へのヒアリング調査から高齢者は若者との対話を求めているということが分かった。若者は高齢者に様々な人生経験を聞くことができ、高齢者は若者との交流の場を持てる。これよって次世代を担う若者を大人へとナビゲーションする。

図 3-13：実際の世代間交流

3-3.「自然への招待」　～大人を楽しめる場へナビ～

近年、効率化だけでは図れない心の豊かさを求める「スローライフ」への関心が高まっている。2006 年 2 月 18 日に内閣府が発表した「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」によると「週末は農山漁村で過ごしたい」と希望する人は、都市に住む 50 歳代では 45･5%に上ることが分かった。また、都市に住む５０歳代のうち２８・５%は田舎での定住を望んでおり、2007 年から定年を迎える団塊の世代の間に田舎暮らしへの関心が高いことを示した。特に都市部の中高年の間では、「休日は農村で過ごしたい」「将来は農村で暮らしたい」という希望が多い。また、農業体験を通した教育を子供に望む親も多い。
土浦市は新治エリア、おおつ野エリアにある田畑や蓮田、霞ヶ浦など自然環境が豊かである。それらを生かすと同時にレジャー環境の整備も進め、人と自然、人と人とのふれあいを大切にしたまちづくりを「自然への招待」として進め、地域活性を進める。
自然への招待は、「自然と出会う」「自然に浸る」「自然で暮らす」という流れで、農村に人々を呼び込むための整備事業を進める。

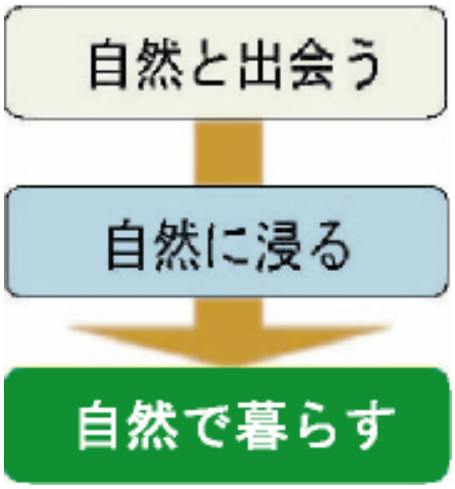


図 3-14：自然への招待

3-3-1.自然と出会う　気軽なグリーンツーリズム

自然との出会いの場の提案として、グリーンツーリズムを推進する。
「あぐりテーブル関東*」がインターネット上で行ったアンケートの結果より、72%の人がグリーンツーリズムを機会があれば体験したいと考えていることが分かった。また「子供たちが農業体験をする必要があると思うか」という質問に対して 94%の人が必要だと回答している。また、グリーンツーリズムに参加するにあたっての問題から、グリーンツーリズムの参加への敷居が高いといえる。

*「あぐりテーブル関東」は関東農政局が行っている、情報提供やニーズ把握のためのインターネット上での取り組みである。

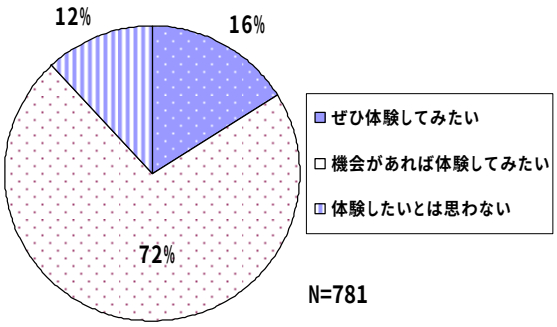


図 3-15　：グリーンツーリズムを体験してみたいか

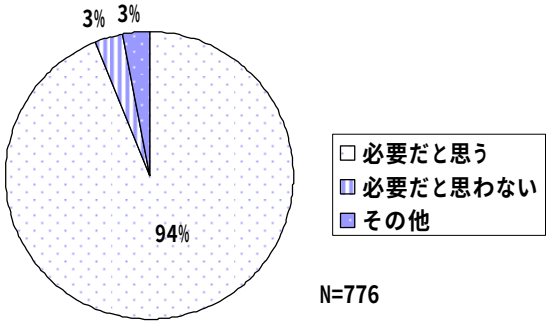


図 3-16　：教育にグリーンツーリズムは必要か

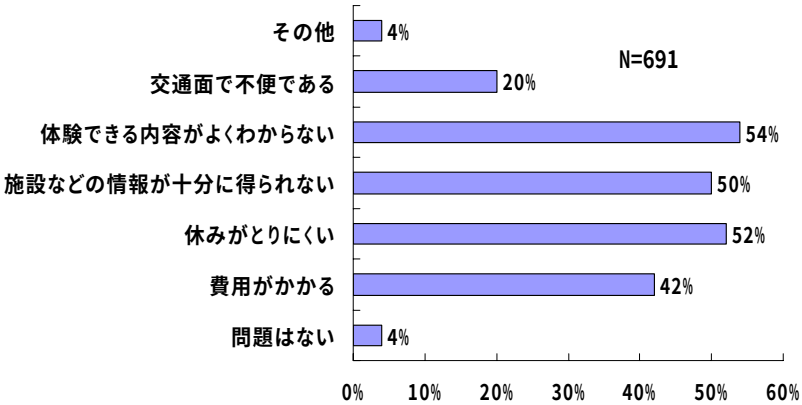


図 3-17　：グリーンツーリズムを体験してみたい

土浦の都心からのアクセスの良さに着目し、都心の居住者をターゲットに日帰りで「気軽な農業体験」のプランを作成する。これまで農業体験の敷居の高さに阻まれていた潜在的な需要を掘り起こし、より多くの人に土浦の豊かな自然に触れてもらうことで、教育や農村活性を図っていく。農家側の受け入れ態勢を強化すると同時に、それらを知ってもらうために、情報発信の充実を図る。

図 3-18　：グリーンツーリズム情報発信の HP のイメージ

3-3-2.自然に浸る　クラインガルテンで週末は農村生活

気軽なグリーンツーリズムを体験したことで自然体験に魅力を感じ、より頻繁に農村での活動を行いたいという人も出てくると考えられる。そのような人々をターゲットに、新治エリア、おおつ野エリアでは　クラインガルテンを整備する。休耕地を整備し、滞在型クラインガルテン(宿泊施設付き市民農園)または日帰り型クラインガルテン(宿泊施設の無い市民農園)として貸し出す。

クラインガルテンの先進事例として、茨城県の笠間市にある笠間クラインガルテンがある。ここでは「農芸と陶芸の融合」というテーマを掲げ、募集定員を超える応募が殺到するほどの成功を治めている。

土浦市は笠間市よりも都心からのアクセスが良く、霞ヶ浦や筑波山といった豊かな自然があるので、都心から人を呼び込めることが期待できる。休耕地の利用を促進することで、同時に農業の活性も図る。

クラインガルテンでは、定期的に土浦市の農家による農作物の栽培講習会を開催したり、利用者のコミュニティーによる農作物の販売会等を行っていく。それらにより、土浦市民とクラインガルテン利用者の交流を図っていく。

* クラインガルテンとはドイツ語で、直訳すると「小さな庭」いう意味であるが、日本では「市民農園」とも呼ばれている。

表 3-3　：笠間クラインガルテン概要

笠間クラインガルテン		
	宿泊施設付き市民農園	日帰り市民農園
区画数	50 区画	50 区画
区画面積	約 300 ㎡の土地に約 30 ㎡の簡易宿泊施設と各 100 ㎡の菜園・芝生	約 30 ㎡の菜園
利用期間	利用期間は、１年単位で最長 5 年間利用可能	利用期間は 1 年単位
年間利用料	40 万円(光熱水代は実費負担)	1 万円
設備	キッチン、風呂、トイレ、ロフト	水道、農具収納庫、休憩所
その他	身体障害者対応型 1 棟有り	

+

3-3-3.自然で暮らす　庭弄りからセミプロへ

週末だけ農村生活を送るのでは飽き足りなくなった人々、またエネルギーあふれる団塊の世代の人々が豊かな老後の生活を送るために、体験型農業だけでなく、「庭弄りからセミプロへ」という目標を掲げ、土浦の農環境を生活レベルでもっと親しめるようにする。そのために技術指導者育成、受け入れ体制の強化を図る。また、おおつ野などの農村エリアの住環境の整備も行う。環境と一体となった宅地開発も進み、活気ある農村へと発展することが期待される。

図 3-19　：農村生活のイメージ

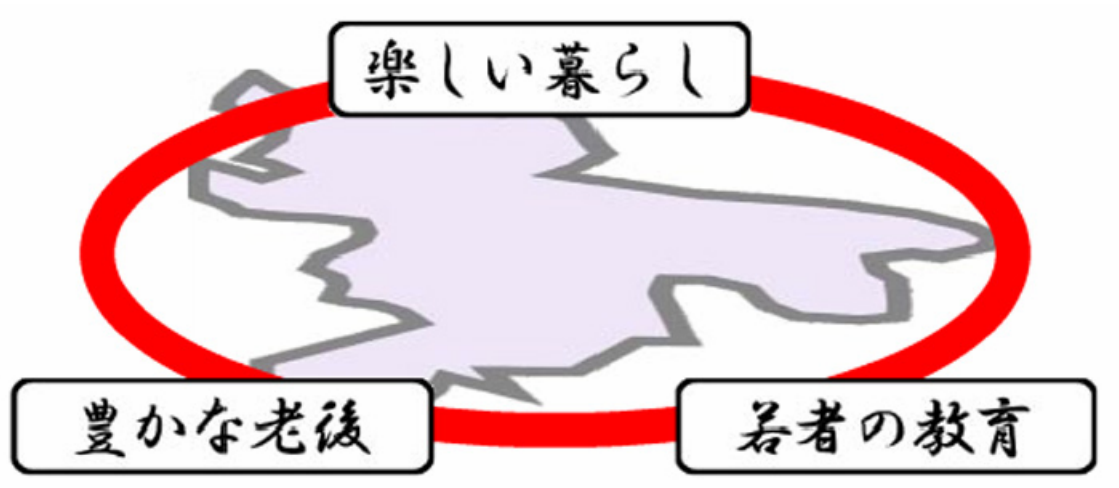
4. 今後の展望

本計画を実現するためには、提案による費用対効果や実施主体の決定が必要である。大人美モールについては、医療施設やコミュニティバスの需要調査が考えられる。特にコミュニティバスは、既存路線との競合を避けるために関係機関と充分な協議を重ねた上で、実際に運行する場合のダイヤやバス停の設定、収益計算による運賃を設定しなければならない。

教育と地元の活性については、教育機関、商店街、福祉施設が連携し、交流事業のためのシステムを確立する必要がある。

自然への招待については、対象地の設定と事業を広く知ってもらうための広報活動をするべきである。

今回提案したものは都市計画マスタープランの一部であり、改善していかなければならない問題は山積みである。それらを総合して人づくり・まちづくりを進めていけば、大人美タウン土浦を形成できるであろう。



5．参考文献

・土浦市商工会議所『土浦市の商業』
（平成 16 年 3 月）
・土浦市『土浦市都市計画マスタープラン』
（平成 16 年 10 月）
・土浦市『統計土浦』（平成 16 年

・土浦市高齢福祉課『給付分析のまとめ』
（平成 17 年 3 月）
・土浦市ホームページ(2005/12/20)
http://www.city.tsuchiura.ibaraki.jp/

・ｉタウンページ(2005/12/18)
http://itp.ne.jp/

・かすみがうらマラソン大会オフィシャルホームページ(2005/12/17)
http://www.city.tsuchiura.ibaraki.jp/section/kyouiku/6006/marathonHP/

・おおつ野ヒルズ(2005/12/19)
http://www.kawashotsuchiura.web.sh.idc.jp/

・土浦全国花火競技大会(2005/12/21)
http://japan-fireworks.com/guide/tsuchiura.html

・国立社会保障・人口問題研究所
http://www.ipss.go.jp/　（2006/01/24 閲覧）

・平成 15 年度 グリーン･ツーリズムセンター機能確立事業
『グリーン･ツーリズム情報提供促進事業
「グリーン･ツーリズムニーズ調査結果」』
http://www.furusato.or.jp/pdf/03_gt_needs_report.pdf
（2006/01/24 閲覧）

・茨城県都市農村交流対策協議会
『茨城のグリーン・ツーリズム』
http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/nokan/new/h151215.html
（2005/01/24 閲覧）

６．謝辞

今回の都市計画マスタープラン策定実習を行うにあたり、
　実習担当の先生方
　技術職員の北原さん
　佐々木さんをはじめとする TA の皆様
には大変お世話にました。深く感謝致します。

またお忙しい中、見学会やヒアリング調査にご協力して頂きました
　阿見町町民活動センター長の竹中様
　いきいき館たいこ橋の皆様
　土浦市役所の都市計画課・高齢福祉課・農林水産課の皆様
　土浦市商工会議所の皆様
　県南生涯学習センターの皆様
をはじめとする皆様には有益な助言を頂き、誠に有難うございました。また多くの方々に最終発表会に足を運んでいただけたことも大変嬉しく思っております。改めて御礼申し上げます。

平成 17 年度　都市計画マスタープラン策定実習６班　一同

7. 付録

第 1 回中間発表レジュメ
第 2 回中間発表レジュメ
最終発表レジュメ